

聖霊降臨後第11主日（特定15） 説教

「才知にあふれたカナンの女の信仰
～主の憐れみをひたすらに信じて～」

〔旧約聖書〕	イザヤ書 56:1、(2~5)、6~7
〔使徒書〕	ローマの信徒への手紙 11:13~15、29~32
〔福音書〕	マタイによる福音書 15:21~28

主の平和が皆さんと共にありますように。

「主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑は頂くのです。」(マタイ 15:27)

異邦人の地であるティルスとシドンの地方で、悪霊にとりつかれたカナンの女の娘がイエス様に病気を癒やして頂くように必死に懇願しています。冒頭の御言葉は、イエス様との対話の中で最もキーワードとなるものだと私は思いました。

「小犬も主人の食卓から落ちるパン屑は頂くのです」

この言葉を聞いて、祈祷書のある祈りを私は思い起こします。

「憐れみ深い主よ、わたしたちは自分のいさおに頼らず、ただ主の憐れみを信じてみ机のもとに参りました。わたしたちは、み机から落ちるくずを拾うにも足りない者ですが、主はかわることなく常に養ってくださいます。」(祈祷書 181 頁の祈りより抜粋)

これは、「ちかづきの祈り」と呼ばれる聖公会独自の祈りです。聖餐式の陪餐直前に唱えられる祈りで、この祈りが好きな方もいらっしゃると思います。実際に、世界の聖公会の教会で最も愛されている祈りの一つと呼ばれているそうです。皆様はいかがでしょう。

「近づきの祈り」の由来にもなっているカナンの女はイエスに必死になって近づこうとしました。

しかし、イエスは、最初はこの要求を拒絶されます。なぜでしょうか？この理由からお話したいと思います。

聖書を読むときに聖書を支える土台骨があります。キーワードは、「神の国」です。神の国の完成は神様の壮大なご計画で天地創造から始まり今もその途中です。そしてその目的はすべての人々を救うこと、まことの平安な状態へと招き入れることです。この歴史観を「神の救済史」といいます。

そして、この救済史の対象になっていたのは、最初はイスラエルの人々でした。イスラエルは小さな部族でしたが神によって選ばれました。これがいわゆるイスラエル民族の選民意識です。

神様は力ある民ではなく、取るに足りない弱い民に救いが与えられることによって、神さまの壮大なご計画を異邦人の誰もが悟ることを計画されていました。

しかし、イスラエルの民はご計画の意味を自分たちの都合のよいように解釈してしまったのです。つまり、自分たちこそが救われし民であり、異邦人はその対象外・・・(この認識は間違いではありません)。

ただし、神の壮大な救い計画を現す器として選ばれたイスラエルの民は大きな過ちを犯してしまうのです。自分たちは偉いのだと。強いのだ。他の民族とは違う優秀な民なのだ。

これは神様がイスラエルの民を選んだ理由と大きく離れてしまいました。

話を戻します。したがって、カナンの女の思いを拒絶するイエスの姿は上記のような理由からなのです。異邦人にも神の救いが広がったのはイエス様の十字架の死と復活によってですから、まだこの時点ではカナンの女には救いの対象外にはないのです。この事実を私たちはしっかりと知っておかなければならないと思います。そして、カナンの女は自分が神の救いの対象外であることをよく知っていました。それを示すのが「主よ、ごもつともです」(マタイ 15:27) という女の言葉が表しています。

イエス様、私が救いの対象外だとはよくよく存じ上げています。救いの対象はあなたの保護の対象である「子供たち」(マタイ 15:26)であることを・・・、しかし、主人の食卓から落ちるパン屑を頂く事は子供たちのパンをとることにならないはずです。

カナンの女の必死の懇願はこのような思いだったのではないのでしょうか。イエス様はカナンの女の置かれた状況に対してすばやく対応した才知(機知/ウィット)に心動かされ、彼女の娘はいやされたのです。

マタイによる福音書第14章で「5千人の供食」の奇跡を思い起こしてみてください。5つのパンと2匹の魚が5千人の男がお腹いっぱいになるまで増えました。そして大切なのはこの後です。残った「パン屑」を集めると12の籠いっぱいになったという箇所です。これは今はまだ神の救いの対象はイスラエルの民だが、神の救いを求めている異邦人にもいずれイエス様の十字架の死と復活によって広がっていく、神の国へはすべて神様の救いを求めている人は招かれていくということを完全数を表す12の籠が

「パン屑」で一杯になったということが暗示していると私は思います。

わたしも「パン屑」は頂くことが出来るはずですよという才知は彼女の確固たる信仰だったのかもしれませんが。私は必ず救われるのだという確信です。

信仰は目に見えないものにどれだけ強く心に向け続けることが大切です。イエス様に御利益を求めてもイエス様は何も応えてくれません。御利益ではなく、目に見えないもの、自分の置かれている状況を受け止め、迷いの中で、信仰が揺らぎそうになることもあります。それでも、聖書の御言葉、日々の祈り、そして皆さんと献げる共同の礼拝によって信仰が支えられますように。そして、カナンの女のように苦境の中でも才知を発揮出来る人になりたいと私自身まだまだですけどなりたいと願っています。